

## 第8回糸島市中小企業振興審議会 会議録

【日時】令和4年5月24日（火）9：30～11：30

【場所】糸島市役所 1号会議室

【出席者】委員：村上会長 福島副会長 大館委員 中原委員 小津委員

立石委員 丸田委員 大谷委員 尾崎委員 大城委員 安武委員

事務局：重富部長 佐藤課長 中島課長補佐 上田主任 溝上主任

オブザーバー：富永課長（商工会）

【欠席者】委員：吉田委員

【内容】

1. 会長あいさつ

2. 議事

会長

新しい委員の方にはこれまでの背景がわからないと思うので、まずは概要を説明する。

一つ目は、本日の審議の内容について。前回の3月の審議会では、中小企業振興基本計画（以下「計画」という）の中の5つのテーマのうち、創業についてどういうことをやるのが良いのかを考えるワークをした。本日はワークの内容を整理した上で、地域、あるいは企業にどういう事業を提案してもらうのか、そのためのテーマを設定したい。送られている資料があると思うが、この資料では議論したものがかなり欠落しているため、補充しながら確認をしていきたい。

また、審議会のスケジュールだが、糸島市の予算の立て方が具体的な内容でないと予算がつけられないため、予算の枠を確保し、審議会では公募で出てきた事業案の内容を精査した上で、確保した予算の中で出来るものを市に答申するやり方ではできない。審議会から方向性を示し、どういうことをしたいのかを募集し、市民や企業がグループを作って事業案を提案し、提案があったものを審議会で決定して市に答申し、予算を確保するというやり方になる。この場合、市民からの提案を来年の2月に決定し、R5年度に予算を要求していくので、翌々年のR6年度にならないと事業が実施できない。

二つ目は情報発信について。前回、情報発信に関する取り組みを、来年度に向けて試してみようか、という話になった。情報発信をすることが重要となっているためである。なぜなら、「わかりやすい情報」「探しやすい情報」がまとまっている体制を作っておかないと、いろいろな取り組みをしても情報が行き届かず、事業の実現が難しいからである。事務局からは、資料で、既存の情報発信の場を一部変更して使っていきたい、と考え方を示してきた。これは、各所からの情報発信の重複をなくす形である。事務局と話を進めてきたが、なかなか審議会独自の取り組みはできない、というのが現状である。審議会のみなさんには、情報発信についても、こういう方向で進

めてほしい、という方向性を明確に決めて頂きたい。また、場合によっては情報発信のチェック体制も含めて、ご意見を頂きたい。

また、私としては、5か年計画で進めているが、5年の間で何を重要視するのか、全体の方向性も審議会のみなさんに確認してもらい、プランを提示して頂きたい。

まずは前回、創業が糸島になぜ必要なのかを議論してもらい、こういう理由で必要だから、と具体的に提案してもらったため、創業についてのグループディスカッションの整理を事務局に話してもらったうえで、審議会の話に進めたい。

事務局	事務局より説明
会長	委員のみなさんから質問があれば伺いたい。
委員	<p>現在の商工会の会員は1,580。糸島市内の全事業者の60%にあたる。今年度で糸島が合併して10年となるが、10年前から今までに創業した事業者や、商工会に入会してくださった事業者は六百数十となる。当時は誰も考えなかった数字。また、10年前の時点で入会されていた事業者の中で、現在も継続して会員となっているのは全体の6割。これから2~4年しないうちに、新しい事業者が半分以上となる。そのため、創業は非常に大事な施策になるので将来を見据えて、商工会としても対応している。商工会の力だけではどうしようもなく、市も一緒になって動いてもらっている。</p> <p>これから事業者はどんどん減っていく。審議会では、きれいごとだけでなく、実際に中小企業がどうあるべきかをみなさんにいろんな場面で実感してもらいたい。この4年間見てきて、これは大変なことだと感じている。時間が過ぎれば過ぎるほど対応が遅くなってしまうため、今ここ何年かでいろんな策を講じていかなくてはならない。なるべく安心して創業できるようにしていかななくてはならない。特に創業して2~3年は心配であるため、ここにも何か手助けをしなくてはならない。行政も一生懸命してくれている。商工会と行政だけではどうしようもないこともある。その中でどういう策を講じていくのか考えていきたい。</p> <p>ここ2~3年で入会した若い人たちの目を見たら分かる。なんとかしないといけない。糸島の魅力を感じてくれている人はたくさんいる。せっかくの審議会の場を作ってくれているから、中身を作っていきたい。これから先、糸島に快く来ていただいて、安心して創業できるようにしていきたい。</p> <p>先日の日曜日に長系のうどん屋さんで、体験農業で田植えをしていた。子どもとお父さんお母さんと合わせて70~80人が集まっていた。元々はうどんしかない所に、林の中に板を貼り、お茶を飲む所を作っている。山の中なのにお客さんが多く、駐車場にも入り切れていなかった。取り組みは難しいものでもなく、糸島で十分できる内容。</p> <p>メディアも来ており、黙っていてもお客様は増えてくる状況。そのため、どんどん充実させていく必要がある。</p> <p>長系のうどん屋さんは、田んぼや畑などでいろんなことをされている。ぜひ行って</p>

	<p>みて、見たり聞いたりしてみてもいいのかもしれない。</p>
委員	<p>どんな創業がいいかについて。農産物や糸島の魅力を発信していく創業が好ましいとあり、農業従事者の声も紹介されたが、正直うまくいっていない話のほうが多い。なかなか続かないという話がある。農業関係の課になると思うが、そういう方に就農支援をどうされているのかな、と疑問に思った。そういう方たちがご自身の農園で農作物を作り、製品を作って販売する、というビジネススタイルだと思うので、製品販売までビジネスが展開できるように支援できたらいいな、と思うが、そのためには農業、ものを作るところから支援をしなければならない。創業支援のために農業支援をする、とは言いづらい状況であるな、と思った。創業を支援していくのであれば、ほかの課と提携して事業をやっていくべきなのでは、と思った。</p> <p>また、自然環境を生かした事業が成功されているが、お悩みが多いのが、なかなかいい場所がない、ということ。市の調整区域や開発制限などがあるため、景観がいいからと新規で場所を探してもなかなか見つからない。ここが解決されると良いと思う。</p>
会長	<p>今、2人からのご意見があった。</p> <p>一つ目は、商工会の会員の割合が、5割は創業して、入れ替えという形で、新陳代謝が進んでいるため、創業をテーマに力を入れて一気に進めていきたい、というご意見だった。</p> <p>二つ目は、農業も簡単にはうまくいかないため、支援の在り方を検討していくべきでは、というご意見だった。</p> <p>テーマ決めは、実際にどういう内容をみなさんに提案していただくかという方向性を示したうえでやりたいと思っていたが、今、事務局からの提案でいくとアイデアという形で3つ提案を頂いた。前回、委員のグループで出ているもので、それがサロン、コンテスト、アプリであるが、私としては①創業が必要な理由②どんな創業がいいか、を委員に具体的に提示してほしいと思っていた。例えば、①創業が必要な理由について、大きな特徴は地域の企業を活性化させていきたいということで、その中で議論して出てきた一つは、「新しい市場を作っていくという方向で地域資源を活用する」「糸島の資源を守る」「雇用を作り出す」「糸島そのものを強くする」「既存の企業とコラボを促進する」「事業者で困っている人たちがいるのでタイアップしてフォローする」「観光資源による体験化をより充実させていく」などが前回のワークでご意見として出てきていた。</p> <p>市民生活の向上という視点では、「魅力ある街にするために取り組んでいく」「次世代の若者をもっと増やすべき」「子供たちに可能性を提示する」「市外者が糸島の魅力を感じられるようにする」「自然環境を守る」「高齢者が住みやすい街にする」「外国人の移住を促進するべき」といった意見が出てきていた。その中で、実際にどんなビジネスがよいかという話で出されたものを紹介すると、「子育て支援」「安全な街」「人の移動を安価に提供」「買い物弱者への支援」「企業のデジタル化推進」「キャッシュ</p>

	<p>レス化の促進」「糸島観光の一括予約ができる」「観光地の混雑状況アプリ開発」「農工商連携のプラットフォーム」「糸島資源のプラットフォーム（連携を図る場）」「食材の情報をちゃんと提供する」といったビジネス案が幅広く提案されていた。魅力の発見と発信という視点では、「糸島の良さに気づく」「気づいたうえで魅力的な取り組みをする」「魅力がわかったのであれば魅力を発信する」といったことがグループディスカッションに上がっていた。</p> <p>必要な理由から考えれば、どんな創業がいいかというのはとても幅広く考えられる。創業に関して、市民生活に係るようなものまで提案されている、と理解している。問題は、どの内容をポイントとして進めていくのかであり、事務局はどう考えているか。</p>
事務局	<p>創業支援は、個別にはではなく全体を支援できるようにと考えている。ビジネスプランコンテストという形であれば、県が実施しているものを活用いただき、周知するという方向でさせてもらいたい。また、前回のグループワークで出てきたアイデアの中から、創業サロンや糸島の魅力を発信するPRなど、創業者を増やしていくという観点で提案した。ほかにもみなさんからご意見があれば参考にさせていただきたい。</p>
会長	<p>私としては、前回のワークでみなさんの意見はある程度出たと判断している。事務局には、その中から具体的に拾ってもらった理解。この後の審議会を進めるためには、この方向性で進める、と提示してほしい。</p>
事務局	<p>創業のサロンは、既存の支援に付け加えてできそう。創業サロンだけでない支援の仕方を公募でアイデアを頂ければと思う。PRについては、R5年度の予算につけられるように進めていきたいと思っている。具体的な提案ができていなくて申し訳ないが、7月以降に進めていく計画の要求のところ、PRをする事業についてやっていきたいと考えている。</p>
会長	<p>打ち合わせでは、PRの話は全く聞いていない。今どう判断すればいいのかわからない。創業サロンについても、創業支援制度の流れの一つになると思うので、今回決めたいテーマとは次元の違う話であろうと考えている。創業に関して、こういうことを委員に検討してほしい、という大きなテーマはないか。創業に関していくつかの柱を決めておかないと、スケジュールの公募のタイミングに乗せられず、公募形式ができなくなる。</p>
事務局	<p>説明したように、創業支援のステップで、創業後の支援が創業支援の中で現状として弱い部分であり、強化ができればいいなと考えていた。本来の流れであれば、公募でテーマを募集して進める、というところであるが、早めにやれるところがあれば一部先行してした方がよいと考え、その中で具体的なイメージで創業サロンを前倒してやりつつ、ほかにもプラスでできることを公募で募集したい。</p>
会長	<p>3月の公募テーマ設定のためのグループディスカッションでは、公募することを前提でディスカッションした。より具体的なものをまとめる形で、例えば市民生活の向上に向けたもので考えてよいということか。そういうこともしない、ということか。</p>

事務局	市民生活の向上に向けた、というのは、個別のビジネスというか、市民生活の安定に向けたビジネスに関するということか。
会長	私の理解では、公募する、ということは具体的なものを委員に出してもらって実行に移していく。そして一つずつ成果を上げていくイメージだった。 事務局と私の認識とが異なっているため、委員の理解を聞きたい。
委員	今回の審議会は、前回のグループディスカッションのまとめをして、今回はこのテーマで行きましょう、というのを決めるための会、と理解していた。
委員	今回の審議会は、魅力の発信・発見を具現化するために、これから公募のテーマを決める、ではなく、前回のディスカッションしたものをわかりやすくしたもので、今回これで行きましょう、と決めるものと理解していた。
事務局	事務局としては、計画20ページの「3. 創業及び事業承継に関する施策」の施策(1)に主な取り組みが掲載されている。その中で、前回のグループワーク(審議会)で「創業者のフォローアップ」「創業者のネットワークづくりへの支援」が足りていないことがわかったため、ここについて公募のテーマを募集する、という理解だった。
会長	<p>それであれば、その前の時点で言っていたかかないと。方向性については確認が取れていると思っていた。確認が取れていないとなると、議論の必要性がまったくないとなると、本日は決められない。議論は白紙に戻すということではよろしいか。ここに書かれていることしかしない、という理解であっているか。私としては、糸島の人がやりたいといったことをやる理解であったが、事務局としては、創業のフォローアップなど、実際にやっていただきながら付随してやる、という趣旨か。</p> <p>また、委員で議論したワークの内容がはしょられてしまっていると感じる。具体的にワークで出てきた意見をまとめた資料で議論した方がよい。見えないのがもったいない。私には前回のワークで付箋に書いてグルーピングしたもの写真データを送っていただいたが、委員のみなさまにも配って確認してもらう方が良かった。そういう状況になっているため、事務局との方向性が違う、となっている。したがって、本日は創業のテーマを決めて公募にかける、という案件には入れないという認識で大丈夫か。</p> <p>あわせて、情報発信についても事務局に確認をお願いしたい。3月の審議会の前日に、予算の付け方のしくみ上、創業のテーマを決めても翌年の予算はつけられない、とわかった。来年度、どう予算をつけて実施するのか。急遽予算をつけることをしなくてはならないこともあると考えている。</p> <p>3月の審議会では、急遽、1枚の紙をお渡しして、情報発信について議論したが、本日、事務局も情報発信について方向性を示した資料を作られている。まずは資料の説明を聞いた上で議論したい。</p>
事務局	事前のすり合わせができておらず、グループディスカッションの整理ができておらず申し訳ない。どうにか計画を進めていきたいと考えている。条例の肝の部分は、市民から意見を募って進めていくことだと理解している。

会長	<p>それであれば、それに該当する資料を出していただかないと。</p>
事務局	<p>創業のテーマについては、創業が必要な理由で3点掲げている（資料1、1ページ目）。そこから、計画20ページの「3. 創業及び事業承継に関する施策」もふまえて、創業支援のアイデアを提案している。前回の審議会をそっちのけにしたのではなく、審議会で足りなかったところを考えられるようにしているだけである。理解が異なっていたら指摘してほしい。</p>
事務局	<p>人事異動などにより前回の審議会に出席した事務局の職員が1名しかおらず、きちんと共有できていなかったことは申し訳なく思っている。事務局としては、創業しやすい環境づくりのための支援策をどのようにしていったらいいかを考えているところであり、創業者をどのようにサポートしていかなくてはならないかを問題意識として持っている。その上で、計画内の創業及び事業承継に関する施策での主な取り組みの中で不足している部分を、前回のグループワークから拾いつつ、できるものは先に、できないものは後にしていく、ということをしていきたいと思っている。なかなかアイデアがまとまらないところ、例えばマッチング等については公募していけたらいい、と思っていた。</p>
会長	<p>方向性が全然違うという認識をしてしまったので、私は継続してみなさんを引っ張ってここで話をする立場ではないと思った。そういう方向性であるのなら、前回、なぜテーマを見つけるためのワークをしてください、となったのかわからない。私の運営に間違いがあったと理解した。なので、このまま継続して審議する、という自信はないし、意思疎通ができない状態である、と判断する。以後の審議については副会長に進行をお願いしたい。</p>
会長	<p>そもそも、もっと前の段階でそういう話になっていて、テーマを出してもらおうという形になっていた。基本施策の5つの考え方から間違っていた。条例をみなさんに知っていただくために、いくら「制度がありますよ」と言葉で伝えるだけでは浸透しない。そのため、実際にやっていただく方に手を挙げていただき、そこを支援することで、自分たちがテーマに対して提案したものでやるということになれば、一生懸命かかわってくれるだろう。そうすると、他の人たちも、「ああいう制度があるのだから頑張ろう」となり、その結果、認知を広げていただけるという認知拡大の意味もあったと私は理解している。</p> <p>事務局の話では、サポートについてはいっぱい出すが、具体的なものについてはしません、と聞こえる。つまり、制度の不足しているものについて補充する形で充実を図り、足りないものについては審議会から言ってもらいたい、というような説明だったと私は理解している。</p> <p>だとすると、最初からボタンを掛け違えているので、運営上、私はこれ以上続けられないということで、進行を交代させて頂きたい。</p>
事務局	<p>基本施策の5つから、審議の結果、創業と人材確保に力を入れて取り組むことになったと理解している。その上で、前回のグループディスカッションでは、時間もないので、創業に絞ってワークをした。事務局としては、創業される方たちの支援となる</p>

	<p>アイデアが出てきたらいいな、と思っていたが、会長はもっと大きなところ、市の課題を解決するようなビジネスを想定されていた。考え方をきちんと共有できておらず反省しているところでもある。少なくとも審議会が決めた事業案については、予算の流れに持っていきたいと考えているが、審議会だけではだめで、広く意見を募る必要があるものは公募する、という理解だった。</p>
会長	<p>計画の23ページにある計画推進に向けての事業検討体制の中に、「効果的な事業を作るため、必要に応じ、審議会がテーマを決め、事業案を募集します」とある。事業案を募集することになっていたので、今回はそのことについてテーマを募集しようとしていた。事業案を出してもらったものから審議会が提案を受けて審議して、どういふものでテーマ付けするか、例えば子育て支援化のテーマで募集しましょうか、と決めて、実際に手を挙げていただく人を探そうという構図になっていると考えていた。</p>
事務局	<p>糸島市中小企業振興基本計画の23ページにある、計画推進に向けて、にある図は、流れを示したものになる。市があり、審議会があつて、まず市が検討してくださいと諮問し、審議会の審議だけでは難しい部分、例えば検討に時間を要したり、もっといろいろな事業者の声を聞かないとできないなど、必要に応じて募集をして提案してもらい、そこから上がってきたものに対して、審議会で検討して、そこでまとめてもらったものを市に答申するようなイメージでいた。</p>
会長	<p>それについても最終の校正の際に、最終文書を私は確認させてもらっていない。審議会が終わって、文面をどうしようかという審議をさせてもらっていない。私は正直、必要に応じてということであっても、今回に関しては振興条例そのものを周知させないといけないという趣旨があるので、できるだけ多くの方にかかわってもらいたいという考えでスタートした。うまくいけば事業者等の声を聞く必要がないが、今だからこそ下す必要があるという判断をしている。</p>
事務局	<p>事業案というのは、計画推進のための事業案という文面になっている。創業に関する基本施策は創業しやすい場を作るという計画になっている。それを推進するための事業案を公募する、という認識だった。</p>
会長	<p>私はそういう説明は受けていない。私は理解を間違えたということで、みなさんにはお詫びしたい。私は継続してやる必要性がないというふうに言われたと理解したため、以降は発言しない。副会長に進行を交代頂く。</p>
副会長	<p>会長の進め方が間違っただと思っておらず、うまくかみ砕いて進めてもらっていた。間違っていたとしたら自分が進める立場でもない。ここからどう進めたらいいのかわからないので進行は事務局にお返ししたいが、現状の把握が全員バラバラなのを感じているため、そこを整理するのが大事と思う。とはいえ時間は進んでいくので、できることできないこと、なにをしなくてはならないのかを整理して、今日の時点でここまでやらないといけない、という話し合いが必要と思う。</p> <p>とはいえ、見切り発車をしても仕方ないと思うので、進行を事務局にお返しする。</p>
委員	<p>みなさん認識がバラバラであると感じる。私の認識は、スケジュールの中にある5</p>

	<p>月にやることは事業化案の選定と公募テーマの選定をする必要があるということである。事務局が話しているサロン等の提案は事業化案の選定を指し、会長が話していることは公募テーマの選定、という理解であっているか。</p> <p>つまり、2つ決めなくてはならないと理解している。</p>
委員	<p>公募テーマの選定の認識が異なっているのでは、と感じる。</p> <p>前は創業者に絞って、審議会からアイデアを出して、こういうことをしたい事業者さんの声を拾いたいね、という話をしてきた。事務局からすると、7月の予算に間に合わない事業案を公募する、というところで理解が異なっているのでは。</p>
事務局	<p>前回のグループワークは、何のための、という目的を曖昧にしたまま話したので、理解が曖昧になってしまっている。</p>
委員	<p>市は我々と一緒に、現実的に事業者と対峙しながら毎日いろんな問題に携わってやらせてもらっている。現実的に事業者の問題や解決が毎日起きている。頂いた資料は現場サイドの文章だと思っている。会長の意に沿っていないところもあると思うが、悪気はない。</p> <p>ずっと話をさせてもらいながら、頭の中で整理されないこともあるが、事業者や職員と話しながら、現場サイドの単刀直入にこうしましょや、ということも市にもお願いしたいし、現実問題、新しい方が増えてきて、これからも毎日増えていく。事業者と対峙して物事を判断している立場として、我々とのやり取りの行き来に反映されているのではないかと思う。</p> <p>業務が多忙な中、新規に大きなテーマや事業の提案があっても、したいばってん、今はできません、となる。これはいずれ近い将来すぐにでも真剣に考えていかなくてはならないと思っている。だから今、みなさんと一緒に準備させてもらっていると思う。会長には失礼だが、現場サイドでしている事務局のことも考えてもらいたい。</p>
会長	<p>現場は考えていないというよりは、議論の確認作業で、何もこちらには言われていないので、我々は承認されたと思って動いていた。事前にこういう形で対応してほしいと投げ合えば誤解がなかったのかもしれないが、ボールを投げてもらってこないで承認されたと思っていた。現場を無視しているわけではない。委員が言われているように、むしろ振興条例を市民に浸透させたいという想いがある。そこには、市民でも参加できるんだ、というパスを作らないと自分事として考えられないからである。元々、委員のいうように、市が全部決めるのではなく、現場参画で反映できるものにした方がいい、市民も参加できる、という形を作ったと思っている。審議会が決めてしまえば簡単なのかもしれないが、現場としては必要でないものを作ってしまうというリスクは回避したい。</p> <p>今回についてはそういう案件をやっているなかで、要するに、審議をするときに、制度的なフローチャート、この人たちがどういうことで困っていて、そこで何ができるのかを相談できるようにしていく必要がある。</p>
委員	<p>審議会のメンバー以外の方が計画をどれくらい理解してくれるか心配。我々は我々の中で浸透させていかないといけない、という想いを持っている。審議会の人間だけ</p>



がわかっているにもかかわらず、回数を重ねていかななくてはならない。我々は我々の団体として、計画の浸透をしていく、ということをお各グループでしていかなくてはならない。私の職員も計画のことをわかっていないと思う、この大事さをわかってもらうように、身近な取り組みからしていかなくてはならないと思う。

会長

そういうご意見もあったので、そういう形の反映で進めていくところであった。制度的なものも大事だが、注意喚起をしていくためには自分事にしてもらわないと前に進まない。それをどうやって自分事として、現時点で足りなければ補充して制度的なものを作っていき必要がある。最初から制度がないからと作っても利用者がいなかったら意味がないと思った。そのあたりを最初は並行して作っていくという判断をしていた。あとあと事業案を出してください、というのは必要性はだんだん低くなっていくと思う。最初は下して提案するというプロセスを経ることによって、これで何か変わりそうだね、と思ってもらえたらよかったな、と思った。

今のところ最初のボタンのかけ方が違うという話になっているので、今、事務局からテーマについて言われたが、すり合わせがうまくいっていない状態でも、またどこかで問題になるため、今回、テーマを決めるのはしんどい。

あわせて、情報共有について、来年予算化できるものがないかということだったので、それだったら情報をいかに伝えていくかというのは一番大事なので、至急でも予算化して投げていくべきではないか、例えばわかりやすいコンテンツをどう作っていくか、プラットフォーム、SNS活用はできるのかとか諸々を1枚資料で提案させていただいていた。そういうものについても予算化できないでしょうかということだったが、打ち合わせをしている中では見積りを取るのも予算を取るのも難しいということになったと理解している。ここで情報発信の取り組み方とあるが、審議会としては何かこれで、と提案できるものはない。事務局からHPについて新たな取り組みをしたいということだったので、提案してもらいたい。

事務局

資料の説明（資料2）

すぐできるというところで、まずは既存のものを活用するという考えからHPを整理した。プラットフォームの作成はアイデアを公募してもいいのでは。

会長

今項目に上がっているものについては3月の審議会の際にこういうことを予算化したいという話が出ていて、事務局はこういう形で対応するので今のところ予算化の必要はない、という提案であると理解している。前に委員のみなさんにどういう情報発信の必要性があるか、カラー刷りの資料をお渡ししたが、どんな情報があつてどういう分類をしていかなくてはならないのか、基本条例に関しての必要な情報を精査していく中で、整理の仕方だとか、そういったものを入れ込んだ形で、今事務局から説明があつた、項目別の整備をするという形になったのかと思う。ただ、項目を開くとまたずらずらと情報が点在するとなると、大変だということもあるので、そのへん、どのくらいの項目で示すのか、設計的な考え方が大事ではないかという話はしている。そういうところに知恵があれば話し合う場が必要かとか、あるいは情報発信についても、文面等についてもチェックが必要なのかとか、それもお任せする形にす

	<p>るのかとか、いうことも検討すべきだという話が出ていた。そういう実際の進め方についての指針も必要かなという理解できている。前は予算化するものはなかったので、急遽、できればプラットフォーム化を早くやった方があとといいのかなと思って提案させてもらった。そういうところもあとと見てほしい。今の話だと予算化の必要はないということなので、審議会としては取り下げるという形になると理解でよいか。</p>
副会長	<p>そういう話で理解している。予算は使わないということで、ご意見はいかがか。</p>
委員	<p>情報発信の取り組み方は予算化しない、予算を上げる必要がないという理解か。</p>
事務局	<p>そういうことではない。プラットフォームはもっと議論して決めていく必要があるため、もっと審議してから予算要求していきたい。意見募集してもよいかもかもしれない。そのため現時点での情報で、7月に予算要求するのは難しいと考える。</p>
委員	<p>事業化案の選定のところで、予算額がどのくらいあるのかがわからない。</p>
会長	<p>予算の運用をどういう形でやるのかを知らない。具体的なものでないと予算がつけられないと聞いたのも3月。創業の案件では500万、とざっくり予算を確保するのは難しそう。</p>
委員	<p>予算確保のイメージがついていない。計画もどのくらいまで具体的にする必要があるのであるのか。見積まで、実際のプラットフォームのイメージまでいるのか。</p>
事務局	<p>予算がいくら、といった具体的な枠はない。予算を要求しても、査定をされていくため、通るかどうかはわからない。どの程度まで事業を検討する必要があるかということ、ものによって違うが、ある程度の形までできるといいのかな、と思う。プラットフォームの事業案はもう少し詰めないと、ということではある。</p>
委員	<p>事業案の選定では、どんなところまで考えておかななくてはならないのか。</p>
委員	<p>今年度、糸島市で中小企業振興の予算を糸島で取っていたようだが、あれはなにか。がんばる補助金等の予算を取っているように見えるが、あれくらいの予算があると理解してよいか。</p>
委員	<p>予算をつけずにやる、でやっていっても良いのではないか。反対に、予算をつけようとするからダメなのではないか。</p>
委員	<p>情報発信について、市HPで情報が公開されている理解。これからも市がやっていることレベルでがんばることはできるという理解であっているか。Twitter等で結構発信されているのは見ているが、そこ中心の広報はいいかな、と思う。ただし、条例の啓発は重いと思う。こういう創業者がいらっしゃいます、といった、条例につながる広報をSNSを活用してされる、というのもありかもしれない。</p>
事務局	<p>SNSを入口として、SNSからHPにリンクを飛ばし、誘導するイメージはある。</p>
事務局	<p>情報発信は今現在の時点でどんどんやっていかななくてはならない状況にある。今回HPを整理している中でも、届くための工夫がないと感じている。そのため、情報発信のプラットフォームの考えは良いかもしれない。市のサイトでは入口があっても羅列されていくだけになってしまうため、それ以上のところは新しいシステムを</p>

	<p>検討していく中で、どうやったら伝わるのか、やり方を考えていかななくてはならないと思う。SNSは市でもアカウントがすでに2つあるが、商工業のアカウントを新設しても良いかもしれない。やり方によっては、事業者さんに発信の依頼をしてもよいのかもしれない。</p>
委員	<p>動画など作るのにお金がかかるのだとも思っていた。予算に入っていたらいいなとは思っていた。</p>
委員	<p>予算が関係ないのなら、できるところから取り組んでいくという視点で、今現在、必要な情報が届いていないと感じている。例えば助成金について、どんな助成金があって、どう活用できるのか。厚労省関係、県の事業、連携しながらやってほしい。農業関係も連携してほしい。連携してサポートできるように、こういうところに情報が一元化されている、といったことをしてほしい。公的なプラットフォームとしてほしい。</p>
会長	<p>打ち合わせの際に、今言われたように国や県の公募の支援を検討しよう、となっていたが、結局そもそも情報を知らないので申請ができない、というところが非常に多いので、まずは情報発信の取り組みを徹底してやっていこう、と理解した。</p> <p>時間になったので、整理をさせていただく。</p> <p>グループディスカッションを公募案として進めている形だったが、それであればもう少しみなさんが提案している中身を資料にまとめたものでここをこうしていけばどうかという意見ももらいたかったが、今回はどちらかという制度的な側面の、例えば創業サロンやビジネスプランコンテストやアプリなど、提案された3つがアイデアとして提示された。その中のサロンについては中身を含めて進めていきたいという説明だった。ビジネスプランコンテストをすとしても資金的にもかかるので、至急には間に合わないと思うので、来年以降にきちんとした申請できれば可能性が高いのでは、と。これであれば公募と違いはないので前に進めてもいい、という気はする。</p> <p>そういうふうなところで、来年度に向けて、副委員長と相談し、みなさんからの出されたものをいくつか整理した中でこれとこれを進めてほしい、というものをアンケート形式で、どういうものから公募をやっていこうかという方向で意見集約をさせていただければと思うが、よろしいか。</p> <p>それについては整理したうえでもう一度皆さんにお配りするなどして回答したものを判断として進めさせていただく。</p> <p>情報については出ている通り、これから精緻して進めていく。</p> <p>創業支援については、できるだけ外部にあるものを利用する、というのが市の方針であるため、審議会独自で何かをするよりも、今あるものを利用する、ということで、整合性を取った形で、チェックしながら必要なものがあれば事業案として審議していきたい。</p>

最後に、スケジュールに関して、審議会の回数が限られている。その中で審議をしなくてはならないため、案件が多い場合には大変なことが起こるかもしれない。その場合は日程も含めて、審議の内容とも照らし合わせながら、長期的に全体像を作って進めていく。再提案して頂けると思うので、みなさんにも確認頂きたい。

■閉会